令和２年度惚ろにがうり実績検討会が開催されました

11 月 30 日，ＪＡ茨城むつみ惚ろにがうり実績検討会が開催されました。今年はコロナ禍のため規模を縮小しての開催で，今年度の実績報告と次年度対策について協議しました。また，出荷実績上位者を表彰するＮ－１グランプリ表彰が行なわれ，最優秀者にトロフィーが授与されました。

古河市は春・秋のレタス・キャベツなど大規模露地野菜産地ですが，夏の高温期にニガウリが導入されており，20～30 歳代の後継者による生産力向上の取組が盛んです。県青果物銘柄産地にも指定されており，生産者 32 名が厳しい選果基準に合格したものだけを「惚ろにがうり」のブランド名で東京・東北方面に出荷しています。

今年は梅雨明けが大幅に遅れたため，曇天による出荷量減少やコロナ禍による販売への影響が懸念されました。そうした中でも，生産者は天候に合わせて茎葉管理を工夫したり，出荷物の選果基準遵守を徹底してきました。その結果，出荷数量・単価とも前年度を上回り，出荷金額は過去最高の実績となりました。

普及センターでは、ＪＡと連携して病害虫対策や新規栽培者支援によりニガウリの生産力向上を今後も推進していきます。

Ｎ－１グランプリ表彰

ニガウリ栽培の様子

令和２年 12 月 ７日　坂東地域農業改良普及センター　萩原（成長産業）